

尾島町をよりよくするために

小島 隼平

(1) 尾島とは何か

尾島町（以下より尾島と略す）とは、私の地元である群馬県南東部の旧新田郡にあった*
1、人口約 8,000 人、面積 19.34 km²の町のことだ。新田氏の始祖である義重の子の義季^{よしすけ}が
この地を領有し、徳川姓を名乗ったことから「徳川氏発祥の地」と呼ばれている。この町は、
日本のどこにでもあるような典型的な田舎まちである。私は 0 歳から 18 歳までを尾島で暮
らしてきた。この町が現在の私を形成したと言っても過言ではない。

なぜ尾島での暮らしを良くしたいのか。私は宇都宮大学に入学し尾島を離れ、宇都宮に引
越して来た。大学での授業を通じて、これまで暮らしてきた中で気が付かなかった尾島の
改善すべき点が見えてきたのだ。尾島は道路の脇一面に田畑が広がる田舎まちである。その
風景と比べると宇都宮は都会であると言えるであろう。この 2 つの地域で暮らしてみて、
田舎だから悪い、都会だから良いというわけではないが、尾島が見習うべきことに気がつい
た。そして、何よりも私の地元の尾島が大好きなので、よりよく暮らしやすくしたいという
強い信念のもと行動したいからだ。

尾島の現状を踏まえて、個人的な解釈や客観性に欠けてしまう嫌いがあるものの、自らが
認識している尾島の良い点と悪い点及び良くない点を挙げて行く。

良いと思う点については、その魅力を他の地域の人たちに伝えていくということも大
切ではあるが、自分が暮らしている地域の魅力を感じていない人が多く「尾島なんて何もな
い」と感じてしまっている町民たちにあらためて尾島が持つ魅力を感じてもらい、地元であ
る尾島に対し自信と誇りを持つことができるように論じて行く。

悪い点及び良くない点については改善の余地がある、すなわち、のびしろがあるとポジティ
ブにとらえ、どのようにすればよくなるのかを自分なりに考え、改善案を提案していくこと
で尾島が抱える問題や課題の改善に寄与して行きたい。

加えて、町民のニーズに合わせて変化して行く尾島の様子を、過去と現在の変化を明確に
し、思い出や記憶と宇都宮大学での学修を積んでいる最中の視点といった、2 つの視点から
その変化を独自に評価し考察を加え、その変化が実際にどのような影響を与えているのか
を調査する。

(2) 尾島の良い点

ここからは、尾島の良い点について挙げて行き、どのようにしたらその良さを町民の方た
ちに伝えることができるかを考えていく。

まず 1 つ目は、子どもが元気ということだ。

尾島は田舎まちであるため、子どもたちが自由に遊ぶことができる尾島公園という広い

公園があり、そこで子どもたちは、放課後や休日などに元気いっぱい遊ぶことができている。尾島公園には、芝の広場とアスレチックの広場があり、さまざまな遊びをすることができる。

また、地域の少年スポーツクラブが充実しており、私も小学生のころ所属していたサッカークラブの FC 尾島ジュニアや、野球チームの尾島ビガーズ、バレーボールチームの尾島グローリーなど、さまざまな少年スポーツクラブがあるため、子どもたちが活発に運動することができる環境が整っていると言うことができる。

このような、田舎ならではの土地の広さと、多様な少年スポーツクラブの存在のお陰で、子どもたちが元気に過ごせている。子どもにとって恵まれた環境である尾島で少年時代を過ごすことができたことは、非常に有難いことであったと 20 歳になって感じた。

2 目目の良い点は、子どもたちだけでなくお年寄りも元気であるということだ。

尾島公園を利用しているのは、子どもたちだけではない。ゲートボールや散歩コースなどよく利用しているお年寄りの方たちも多い。尾島公園には、テニスコートが 3 面隣接していて、そこを利用し、休日にテニスを楽しんでいるお年寄りの方たちをよく目にしていた。

先程紹介したように、尾島公園は子どもたちも多く利用している。そのため、お年寄りとも子どもが関わる場になっており、子どもの元気な姿に影響され、お年寄りも元気になっていることが考えられる。

また、同様に資源回収や環境美化活動なども、地域の子どもたちとお年寄りが共に参加し、協力して活動に取り組んでいたこともあり、尾島のお年寄りが元気であることは運動だけでなく、地域の活動にも積極的に参加し、子どもたちと多く触れ合っているためであると言える。このような子どもとお年寄りの良い関わりのあり方が、これからも続いて行っていきたいと考えている。

3 目目の良い点として、田畑に囲まれていて自然が豊かであるという点である。

自然が豊かであるという点は、子どもたちが虫とりやかけっこなど屋外で遊ぶことができる。屋外で活発に遊ぶことで、体力の向上に繋がり、体調不良に陥りにくくなるという利点がある。

さらに、田畑に囲まれていることで、多くの生物との関わりが生まれる。アゲハチョウやトンボなどの虫だけでなく、キジなどの鳥類も生息していたため、多種多様な生物を間近に見ることができた。なかにはハチなどの危険な生物も生息していたが、そういった生物の危険性を肌で感じることもできていた。

小学生のころは、近くの川に飛び込みをして遊ぶなど恵まれた自然のなかで遊んでいたため、心身ともに健康に成長することができた。自然のなかで成長することは、危険な面も持ち合わせているが、子どもに対して良い影響があると言うことができる。

4 目目の良い点は、尾島のなかに国道が 2 本（17 号線、354 号線）あることだ。

尾島のような田舎まちに国道が 2 本も通っていることが驚きではあるが、そのお陰で各地へのアクセスが便利になっている。

17 号線は、東京都中央区日本橋を起点とし、新潟県中央区を終点とした、新潟東京間を

南北に縦断する全長 349.1 k m の国道である*2。この 17 号線があるお陰で、埼玉県へのアクセスが非常に簡単になっている。2011 年には、国道沿いに「道の駅おおた」が完成し、尾島だけでなく太田の名産品をアピールする要所の 1 つとなっている。

354 号線に関しては、群馬県高崎市を起点とし、茨城県銚田^{ほこた}市を終点とした、茨城県と群馬県を東西につなぐ全長 175.2 k m の国道となっている*3。こちらの国道は、太田市の中心部に向かうときや、高崎市などの群馬県の中心部に向かう場合に用いられる場合が多く、群馬県内の移動の際に快適に運転することができる。

このように尾島には、東西南北の全方位を網羅するように国道が通っているため、観光地やショッピングに出かける際のアクセスが便利である。

5 つ目の良い点は、夏にねふたまつりが開催されることだ。

ねふたまつりとは、8 月 14、15 日に盛大に開催される尾島ねふたまつりのことである。

この尾島ねふたまつりは、青森県弘前市と太田市との歴史的なつながりにより 1986 年から始まったまつりであり、青森県弘前市で開催されるねふたまつりのねぶたを立体から平面の扇形にしたねぶたを運行する。このねぶたは、実行委員会や上州ねぶた会などの運営団体だけでなく、児童館や保育園、個人による出陣もできるようになっており、家族や子どももまつりに参加することができる。私が所属していた少年サッカークラブの FC 尾島ジュニアも毎年ねぶたを作成し、まつりに参加していた。

まつりの最大の見所は、ねぶた運行で、高さ 7 メートルにもおよぶ扇ねぶたとねぶた太鼓の隊列は勇壮そのものだ。「ヤーヤドー」の掛け声とともに十数台のねぶたが会場を練り歩き、まつりの最高潮に行われるねぶた太鼓とまつり囃子の大合奏まで目が離せない。近年出現した、太鼓の直径が 10 尺*4ある大太鼓も見所の 1 つとなりつつある。

まつり当日は、おおた物産市で特産品の販売、津軽物産市として青森県弘前市の特産品の販売も行われており、尾島にいながらも青森県のりんごジュースや津軽焼などがその場で購入することができる。

昨年は、2 日間で 16 万人の観光客が尾島ねふたまつりに訪れた。尾島の人口は 2019 年現在で約 8,000 人*5であるため、人口の 20 倍ほどの観光客がやってきたことになる。*6

ねふたまつりは、観光客だけでなく地元の町民たちも盛り上がるまつりであるため、尾島の誇りであると言えることができる。

(3) 尾島の悪い点及び良くない点

ここでは、尾島の悪い点及び良くない点について挙げて行き、どのようにすれば改善することができるのかを考えて行く。

1 つ目は、子どもが少ないことだ。

前章で紹介したように、子どもたちは元気であるが、その元気な子どもたちの人数が少なくなっている。この問題は、現代の日本が抱える最大の社会問題の 1 つである少子高齢化である。

10年ほど前は、1学年3~4クラスであったが、近年では、1学年2クラスが基本になっており、学年によっては1クラスだけになってしまっているような現状がある。このような状況では、小学校や中学校が閉校してしまいかねないだけでなく、多くの少年スポーツクラブの活動も減少又は終了してしまう可能性がある。

また、前章で述べたように、元気な子どもたちの姿がお年寄りに元気を与えていると考えられているため、子どもたちの人数が減少してしまうと、子どもとお年寄りが触れ合う機会も減少してしまい、お年寄りの元気も減少してしまうのではないかとすることも考えられる。

この問題への改善策としては、政府が行っている子育てをしやすい環境を整えることが最優先事項であると考えている。しかし、地域の住民による子育てへの協力など、政府の活動だけでは支えきれない部分も存在しているため、個人ができることを考えて行動することも重要であると考えている。

少子化の問題についての明確な改善案は未だに考えられていないため、今後もこの問題について考えて行く。

2つ目は、不良が多いということだ。

不名誉なことに、かつての尾島中学校は、太田市のなかでも有数の不良の多い中学校として名が知られていた。同級生の数名は、中学校を卒業した後に暴走族に加入した。夜中に暴走族が通りを走る騒音が聞こえるときもある。

しかし、このような町の状態を改善するために、警察による取締りが一層強化され、暴走族による騒音は以前と比べると格段に少なくなった。また、中学校の先生と町民が協力して中学生の生活指導を行うことによって、現在では不良も激減し、私が通っていたころとは違う学校のようになっているという。

個人の意見ではあるが、実際にそのような環境で生活してきたため、不良といっても悪い人たちばかりではなく、むしろ根は優しい人たちが多いという実感があり、見た目や周囲からの評価ばかりに流されてその人たちのイメージを勝手に決め付けてしまうことは良くないことであると述べておきたい。

3つ目の良くない点として、駅が無く、最寄り駅まで行っても電車の運行本数が少ないことだ。

尾島には駅が存在しないため、隣町の最寄り駅まで行かなければならない。その最寄り駅までは、歩いて約30分掛かる。高校生などの学生は自転車で駅に行って電車で通学することができるが、自転車での移動が困難になってしまったお年寄りの人たちは、電車を利用しづらいようになってしまっている。

車で向かえば約10分で到着するが、駅の近くにコインパーキングなどの駐車場が無いため、車を置いて電車に出かけにくくなっている。

また、駅に到着しても電車の運行本数が少なく、通勤ラッシュ時でも1時間に3本ほどの運行本数になっており、常に満員電車状態になっている。お昼ごろの利用する人が少ない時間になると1時間に1本になる。

3年ほど前は、毎朝の通学時は満員電車で押しつぶされていた。休日の部活が午前中に終わったとしても、お昼に電車があまり来ないため、結局帰宅するところには15時ぐらいになっていた。

お昼の電車の運行本数が少なくなってしまうことは仕方ないとしても、最寄り駅までの距離が遠いことへの対応は必要であると考えます。

この課題への対応策として、駅までの送迎バスを運行させることを対応策の1つとして挙げる。宇都宮市のように多くのバス停を回ってから駅に向かうような循環はできないと考えられるが、町内に2箇所ほどのバス停を設置し、そこから駅までを直通で結ぶことができれば、より多くの方がより快適に電車を利用することができるようになると考えられる。現在この直通バスは、ねぶたまつりの期間中のみ運行している状態であるため、常時運行が求められる。

4つ目は、車がないと生活が困難であることだ。

普段の買い物ができるスーパーマーケットは自転車で行くことができる距離にあるが、家電量販店などの専門店の多くは自転車で行くことが難しい距離にある。前項で述べたように電車やバスなどの公共交通機関はあまり整っておらず、そういった店舗に行くためには車が必要である。尾島の良い点で挙げた2本の国道も車が無ければ有効に利用することができない。このような状況にあるため、運転免許証の返納を考えているお年寄りも生活が困難になってしまうため、なかなか気が進まないのではないかと考えられる。

田舎が抱える典型的な課題であるがこの課題も、前項のように送迎バスの運行や、電車などの公共交通機能の少しの向上によって、改善することができるのではないかと考えている。高齢者による自動車事故が劇的に増加している現状を考えると、公共交通機能の一刻でも早い改善をすることで、高齢者による自動車事故を未然に防ぐことが期待できるという利点もあることを示した上で、この課題への改善案とする。

この章では、尾島をよりよくするためにはどのようにすればよいかと考えてきたが、尾島には私個人が考えただけであっても数多くの悪い点及び良くない点が存在していることがわかる。前述した課題をどのように改善または解決して行くのかは、1人では到底力が及ばないことを実感した。よりよいまちづくりをして行くために、住民個人が地域の課題を発見・実感し、自治体や行政と連携して改善、解決に向けて取り組んで行く姿勢が求められる。

(4) 変わり行く尾島

尾島に住んでいた3年前までの様子と現在の尾島^{注3}の様子を比較し、その変化がどのような影響を住民に与えているかを考察し、評価して行く。ここでは2つの変化を採り上げる。

まず1つ目の変化として、高校生のときに通学路として利用していた道路のわきの草原がアスファルトやコンクリートで固められ、新しいアパートが建てられていたことだ。

このアパートは2年前に建てられたようで、私が宇都宮で暮らしている間に完成してい

たため、帰省したときに驚いた記憶がある。近年の尾島では、多くのアパートの改修工事が行われていた印象があったため、アパートの老朽化が進んでいることが考えられる。そのような状況の中で、新築アパートに引っ越した住民や他の地域から移住してきた人もいるのではないかと考えられ、新築アパートを建てることで居住地の拡大に一役買っている。

しかし、小学生のころアパートが建てられた草原で友達とかけっこや虫とりなどをして遊んでいたこともあり、かつての遊び場が無くなってしまったことが寂しいように感じられた。同様にこの地に愛着を持っていた住民にとっては寂しい結果になってしまったということができるが、町全体としてみれば特に困ったことは無いため、土地の有効利用をしたと捉え有意であったと言えるのではないだろうか。

2つ目の変化として、カラオケ店「まねきねこ」が1年前に閉店してしまったことだ。

「まねきねこ」は全国に展開しているカラオケチェーン店であるが、尾島では唯一のカラオケ店であった。閉店してしまった理由としては、さまざまなことが考えられるが、最も大きな理由としては利用客の減少に伴う売り上げの縮小ではないかと考えている。

現在は閉店してしまった「まねきねこ」であるが、地域にとって大きな役割を担っていた施設であったと考えている。尾島にはゲームセンターなどの娯楽施設がほとんど無く、唯一の娯楽施設がこの「まねきねこ」であった。子どもからお年寄りまで、老若男女問わず楽しめる場所であり、ストレス解消の効果も得られた。お年寄りはカラオケ大会を開催するなど、地域の住民の交流の場としての役割も担っていた。

尾島の唯一の娯楽施設として、気がつかないうちに多くの働きをしていた「まねきねこ」、今は無きこの店舗を悲しむ住民も多いであろう。地方に出店する店舗は、その地域での役割を自覚した上での経営を求めたい。

(5) 尾島をよりよくするために

ここまで尾島の良い点、悪い点及び良くない点、尾島の3年間での変化を書いてきたが、尾島をよりよくしたいと思っていたものの、これまで具体的にどこが良くて、どこが悪いのかが把握できていなかった。

これから尾島をよりよくするためには、子どもとお年寄りが相互に良い影響を与えることができる環境を交流の基点となっている尾島公園の維持管理をして行くことや、観光客だけでなく尾島町民も熱狂するねぷたまつりにより多くの団体の参加や屋台の出店を促し、祭りがさらに活気あるものに盛り上げて行くことが求められると考える。

また、本稿では考えきることができなかつた少子高齢化への具体的な対策を考えていくこと、公共交通機関を整備するための町民に対するニーズの調査、閉店してしまった老若男女の憩いの場、交流の場であった「まねきねこ」に代わる新たな娯楽施設の創出をして行くことが尾島の抱える課題の改善に繋がって行くことが期待できる。未だ明確な改善案が出来上がっていないため、具体的な改善案をこれからも考えて行きたい。

尾島での暮らしをよりよくするためには何ができるかという志を持って、この宇都

宮大学に入学してきたため、本稿を書くことを通じて尾島の誇れる魅力や抱えている課題などを知ることができたことは非常に有意であった。

本稿を書き終えたからと言って満足せず、これからも変わらぬ志を掲げ、尾島のためにできることを学びつつ考え、実行して行きたい。

脚注

*1 「旧新田郡にあった」という表現は、尾島町はもともと新田郡の一部であったが、2005年3月28日に新田郡は（旧）太田市、藪塚本町との合併によって太田市となり、新田郡としての尾島町は消滅したことを示している。現在は太田市を構成する町の1つとなっている。

*2 国道17号 - 国土交通省 関東地方整備局 大宮国道事務所 HP / 国土交通省 関東地方整備局 大宮国道事務所 / 「上武道路」(2019年6月7日現在)
(<http://www.ktr.mlit.go.jp/oomiya/02sigoto/17/jobu01.htm>)

*3 国道を往く / 「国道354号」(2019年6月7日現在)
(<http://route01.com/r354a.html>)

*4 約3m (1尺=約30.3cm)

*5 太田市公式 HP / 太田市 | 町別人口および世帯数 / 「町別人口及び世帯数—平成31年3月31日現在」(2019年6月7日)
(<https://www.city.ota.gunma.jp/005gyosei/0020-001kikakukikaku/files/jinko20190331machi.pdf>)

*6 ググっとぐんま観光宣伝推進協議会 HP / 尾島ねぶたまつり (太田市) | ググっとぐんま公式サイト / 「尾島ねぶたまつり (太田市)」(2019年6月7日現在)
(<https://gunmadc.net/event/%e5%b0%be%e5%b3%b6%e3%81%ad%e3%81%b7%e3%81%9f%e3%81%be%e3%81%a4%e3%82%8a>)

*7 2019年3月23日現在